

『建設工事等における外来種対策指針-母島版-』の試行状況について

1. 母島外来種対策指針とは

母島の自然環境、世界遺産の価値の保全のため、
公共工事等にともなう外来種の侵入防止に必要な対策を示したもの。

★特に母島の生態系への影響が大きいと予想される
外来プラナリア類 と 外来アリ類（ヒアリなど）の侵入防止に注力！



*その他の外来種についても
母島へ持ち込まないよう留意し、
島外からの侵入防止に努める。

従来の環境配慮指針との違い

⇒ 従来の指針に付け加えて運用することを想定した「母島特化版マニュアル」です。

小笠原には「母島列島にしかいない固有種」がたくさんいますが
「まだ母島にはいない外来種」が侵入することで、いなくなってしまうおそれがあります。

母島の自然を守るには、母島の状況に合わせたマニュアルが必要です。

<本指針の位置付け・運用イメージ>

環境省
林野庁
東京都
小笠原村 + 母島版

すべての公共事業を対象とした共通指針
各機関のマニュアル等と外来種対策指針-母島版-を
セットで運用

遺産事務局として策定し、指針の概要が各機関の業務
仕様書に共通して添付されることを想定

■管理機関発注工事

発注に当たっては、試行内容を仕様書に記載の上、試行点検に係る人工も積算に計上した

- ・環境省工事：実施済み（搬入回数4回）
- ・東京都工事：実施予定

※管理機関にヒアリングを行い、試行案件を選定した



■その他工事

指針の試行は、公共工事を主に対象としていたが、事業者（関電工）の理解・協力が得られたことから、以下1件においても試行を実施した

- ・母島無電柱化工事：実施中（搬入回数1回）



令和7年12月26日時点で、工事2件、計5回資材搬入作業を実施



母島外来種対策指針の試行について 2) 実施内容

項目	対応事項	
①講習会の受講、事前手続き	<p>必須 現場代理人の講習会(試行版)の受講（初回版30分）</p> <p>努力→なし 作業員の講習会の受講（受講年度は問わず1回以上）</p> <p>努力 現場代理人から作業員へ、受講内容の共有</p>	
②資機材の選定・調達準備	<p>努力→なし 新品資材の調達</p> <p>努力→なし 外来種の持ち込みリスクの高い地域・資機材を踏まえた資機材の選定</p>	
③施工計画の策定	<p>努力 外来種対策の実施を考慮した施工計画（対策に必要なスペース、時間等の確保）</p> <p>必須 持ち込み資機材の品目と日程の共有</p>	
④資機材の搬出（内地、父島での対応）	<p>努力 搬出前の目視点検、洗浄等の実施 (上記を実施した場合) 目視点検の状況がわかる写真の撮影 資機材点検チェックリストの記入</p>	
⑤資機材の持ち込み（母島での対応）	リスク低	<p>必須 →全て「リスク高」で対応 資機材等の目視点検</p> <p>必須 →全て「リスク高」で対応 資機材点検チェックリストの記入 ※工事監督員の立ち会いについては、監督員の判断・指示に従う。</p>
	リスク高	<p>必須 工事監督員及び遺産事務局立ち合いによる目視点検</p> <p>必須 資機材点検チェックリストの記入（付着物があったもののみ）</p>
	その他	<p>必須 島外で使用した靴の洗浄</p>
⑥母島へ持ち込んだ資機材の島内移動・保管	<p>努力 養生シート等による資機材の梱包</p> <p>努力 外来種や土壌の付着を防ぐ運搬ルートや仮置き場、保管場所の選定 (外来種持ち込みリスクの高い環境で保管する場合) 保管場所へのトラップの設置等</p>	
⑦外来動植物発見後の対応	<p>必須 遺産事務局への連絡 ※資材の運搬前に連絡することが望ましいが、対応困難な場合はヤード等への移動後でも良いのでできる限り早めに連絡</p> <p>努力 外来種の除去、捕獲</p> <p>努力 写真等による個体の特徴、発見状況の記録</p>	
+⑧事後ヒアリングの実施		

母島外来種対策指針の試行について 2) 実施内容

■持ち込み資機材リスト兼資機材点検リスト（内地／父島／母島）（代理人／管理者／監督員）										目視点検結果					備考 (洗浄等の対応状況)	
No.	区分	品名	新品／ 中古(仮設材等)	荷姿	数量	搬出地※ (経由地)	積出港※ (経由地)	荷揚港	船名	島内一時保管場所	梱包状態	土砂の付着	動物の混入	植物の付着	その他の付着・混入	
1	資材	丸太	新品	ラップ梱包 直置き	100m ³	群馬	芝浦ふ頭	沖港	共勝丸	なし	✓	✓	✓	✓	✓	
2	資材	碎石（C-40）	新品	専用コンテナ	8t	静岡	芝浦ふ頭	東港	鳳凰丸	なし	✓	✓	✓	✓	✓	
3	車両	バックホー	中古	梱包なし 直置き	1台	父島	二見港	沖港	おが丸 はは丸	○○事務所駐車場	✓	✓	✓	✓	✓	父島にて洗浄の上持ち込み 土の付着があったため、母島にて再度洗浄
4	機材・工具	カラーコーン	中古	コンテナ	15本	父島	二見港	沖港	おが丸 はは丸	○○事務所倉庫	✓	✓	✓	✓	✓	父島にて洗浄の上持ち込み
5	機材・工具	信号機	中古	コンテナ	4基	父島	二見港	沖港	おが丸 はは丸	○○事務所倉庫	✓	✓	✓	✓	✓	父島にて洗浄の上持ち込み
6	機材・工具	発電機	中古	コンテナ	2基	父島	二見港	沖港	おが丸 はは丸	○○事務所倉庫	✓	✓	✓	✓	✓	父島にて洗浄の上持ち込み

※搬出地の記入について

- ・新品の場合：丸太・石材など自然物の場合は産地を記入。
- ・コンクリートや車両、機材・工具等の工場生産品の場合は工場の立地を記入。
- ・中古（仮設材等）の場合：直近の使用場所を記入。
- ・いずれの場合も、小笠原村以外の場合は都道府県名まで、小笠原村の場合は島名を記入。

※積出港の記入について

- ・経由地がある場合には、その旨記入。

※梱包状態のチェックについて

- ・大きな破損、付着物等、想定していた荷姿と大きく異なっていないことを確認。

事業者で搬入前に記入し、
管理機関へ共有する

資材搬入時に、梱包状態、土砂の付着、動物の混入、植物の付着、そのほかの付着・混入状況等を確認し、リストに記入する。

■持ち込まれた資機材数と動植物等の付着状況

持ち込まれた資機材数：84品目

動植物等の付着状況：18品目（約2割）

（同じ資材に2種類以上の付着がある場合にも、1品目としている）

ミツバチの死体



■確認された付着物

＜動物の混入の内訳＞

（件）

生体	巣	死体	羽根	排泄物
1	2	4		

確認された動物例：ニセケバエ科の生体、クモの巣、クモの死体、蛾の死体、ミツバチ死体

＜植物の付着の内訳＞

種子・果実	落葉・落枝
	2

土の付着



＜土砂の付着の内訳＞

土
8

＜その他の付着の内訳＞

キノコ	ゴミ
1	4

土の付着



- ・確認された付着物はその場で除去を実施
- ・ニセケバエは港で、点検中に飛んできて混入した可能性が高い

■付着等が確認された事例の特徴

- ・持ち込まれた資機材の新古は、8割が新品となっている。
- ・資機材の新古ごとに付着物が確認された割合を見ると、新品が13.3%、中古が88.8%となつており、中古の方が高い割合となっている。（中古はほとんど車両）

(品目)

	新品	中古	合計
持ち込まれた資機材	75	9	84
うち何らかの付着物が確認されたもの	10	8	18
付着物が確認された割合	13.3%	88.8%	



バックホーに付着した土



キャタピラーに付着した土



トラックの荷台に付着した
キノコ

母島外来種対策指針の試行について 3) 実施結果

- ・持ち込まれた資機材の種類は、約9割が資材となっている。
- ・資機材の種類ごとに付着物が確認された割合を見ると、資材が15.3%、車両が100%となっており、車両が最も高い割合となっている。

	資材	車両	合計
持ち込まれた資機材	78	6	84
うち何らかの付着物が確認されたもの	12	6	18
付着物が確認された割合	15.3%	100%	

また、「母島への持ち込み」ではないので、上記データに含めていませんが、母島から内地への搬出の際、車両の運転席にヒゲナガアメイロアリの巣が確認された。

(殺虫スプレーで駆除)



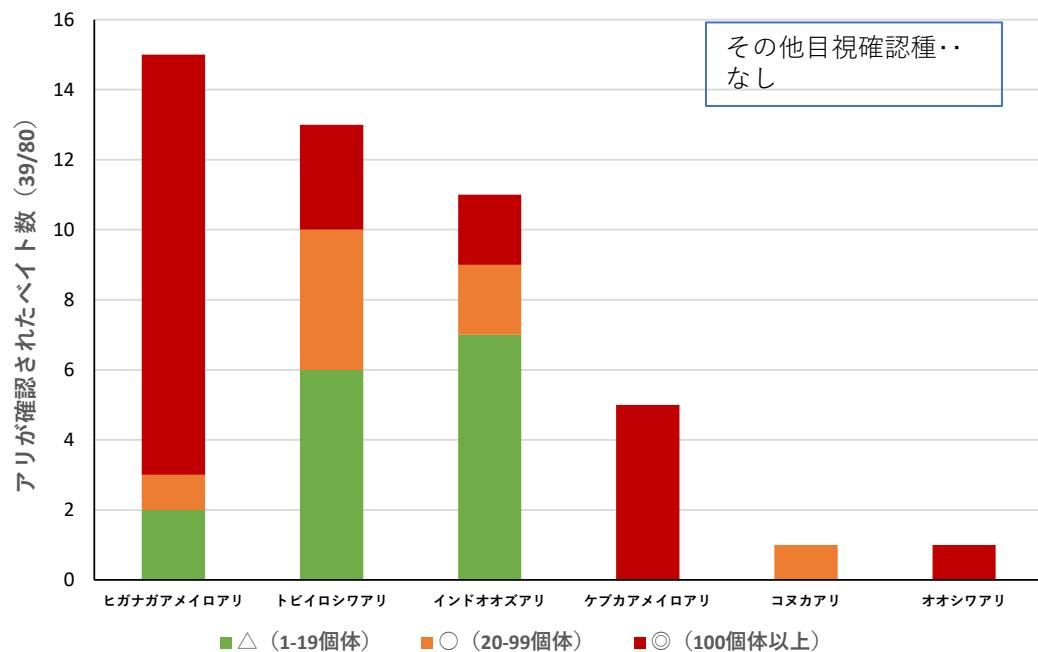
■来年度以降も試行点検を実施

- ・試行件数として数が少なく、運用面での課題や改善点等の検討が十分にできていないため、試行点検を継続予定
- ・関係機関と調整し、試行件数を増やせるよう検討中。
今後の指針確定に向けて、引き続き進めていく

参考 2025年度：外来生物アリ類モニタリング調査結果（東京2港湾）



月島ふ頭アリ類確認状況（ベイト）



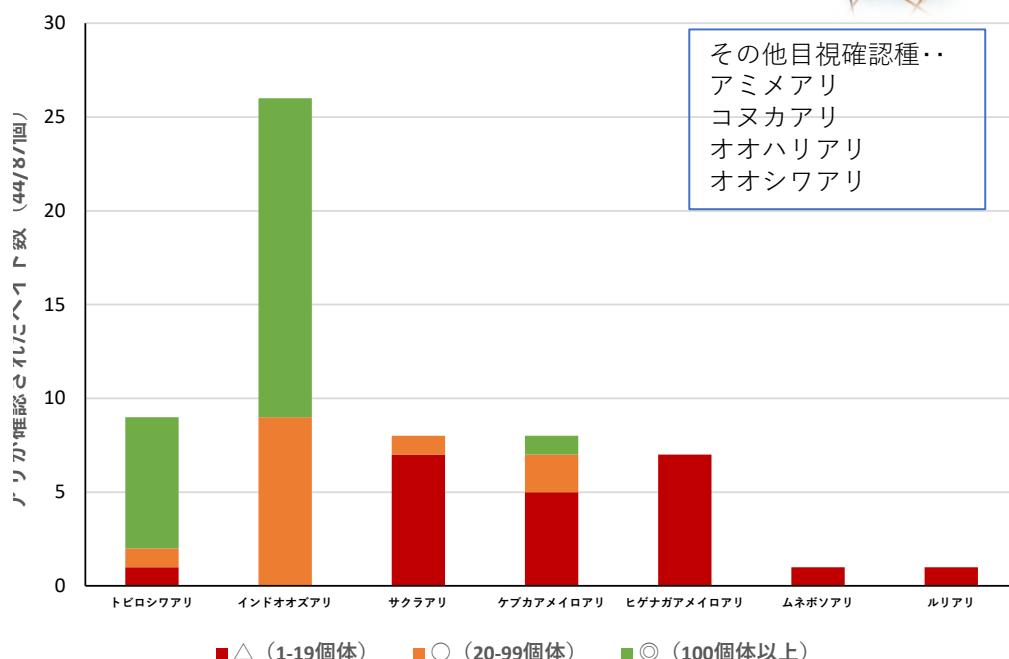
2024年度に引き続き、本土の東京2港の小笠原へ往来するコンテナ等周辺でベイト誘引、目視調査を実施した。

芝浦ふ頭：ヒガナガアメイロアリが確認された。
月島ふ頭：ツヤオオズアリ、ヒガナガアメイロアリのほか、特定外来生物のセアカゴケグモが1個体確認された。

芝浦ふ頭では2024年度よりも調査範囲を拡大し、小笠原に共通する外来種の南方系の外来種ヒガナガアメイロアリを検出した。アリ類のほかには、月島ふ頭で2024年度に引き続きセアカゴケグモが確認された。



芝浦ふ頭アリ類確認状況（ベイト）



参考 2025年度：外来生物アリ類モニタリング調査結果（小笠原2港）



父島・母島の港湾一帯でベイト誘引、目視および粘着トラップ調査を実施した。

父島二見港：ナンヨウテンコクオオズアリなどの外来種を中心とした既知種のほか、2023年度に初記録があったミナミヒメハリアリが再確認された。

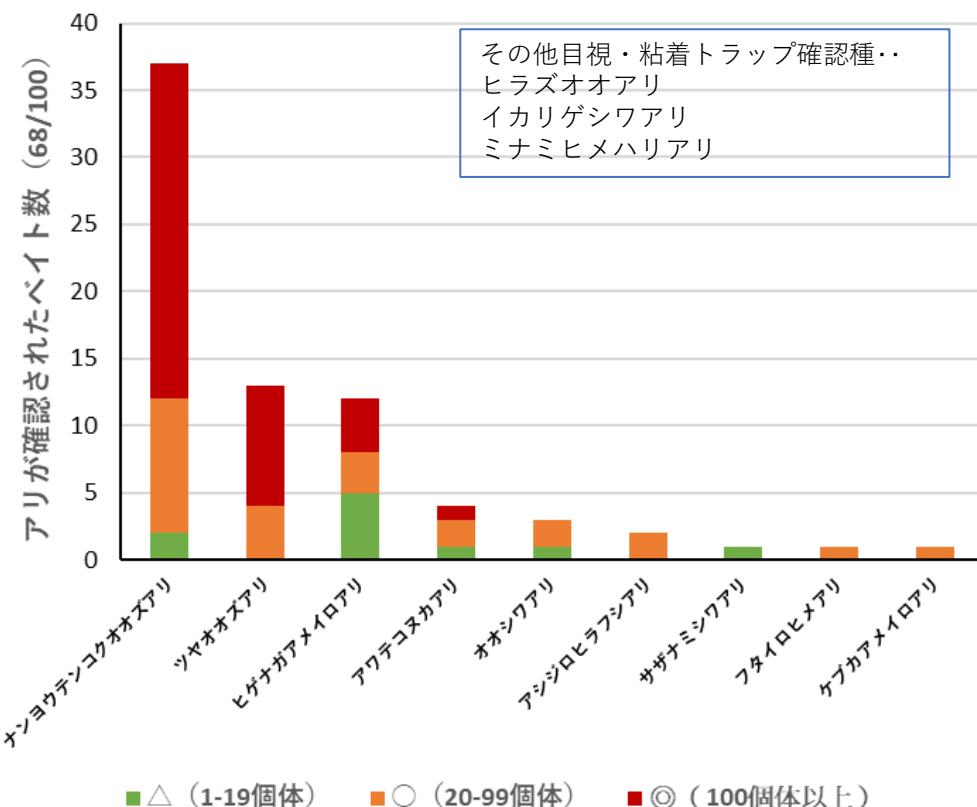
母島沖港：ナンヨウテンコクオオズアリなどの外来種を中心とした既知種を確認した。



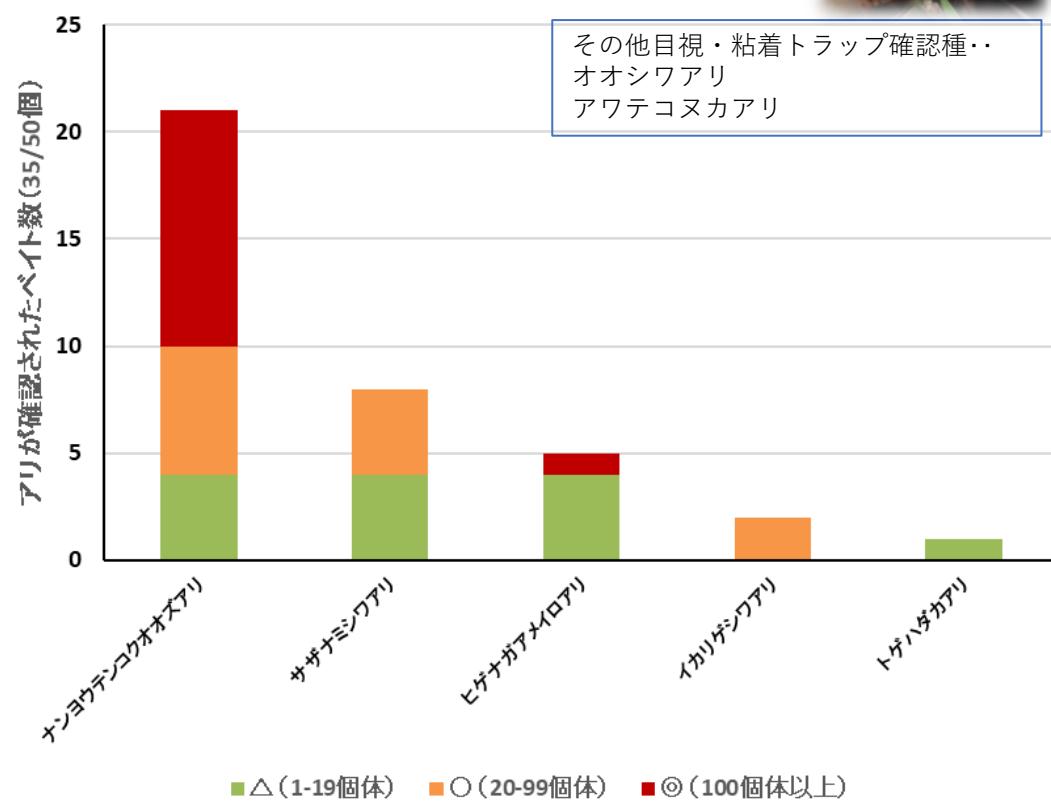
島外から侵入した新たなアリ類は確認されなかったが、近年記録された種の再確認があり、留意が必要。



父島二見港アリ類確認状況（ベイト）



母島沖港アリ類確認状況(ベイト)



参考 2025年度：外来生物モニタリング調査結果（母島中ノ平プラント）



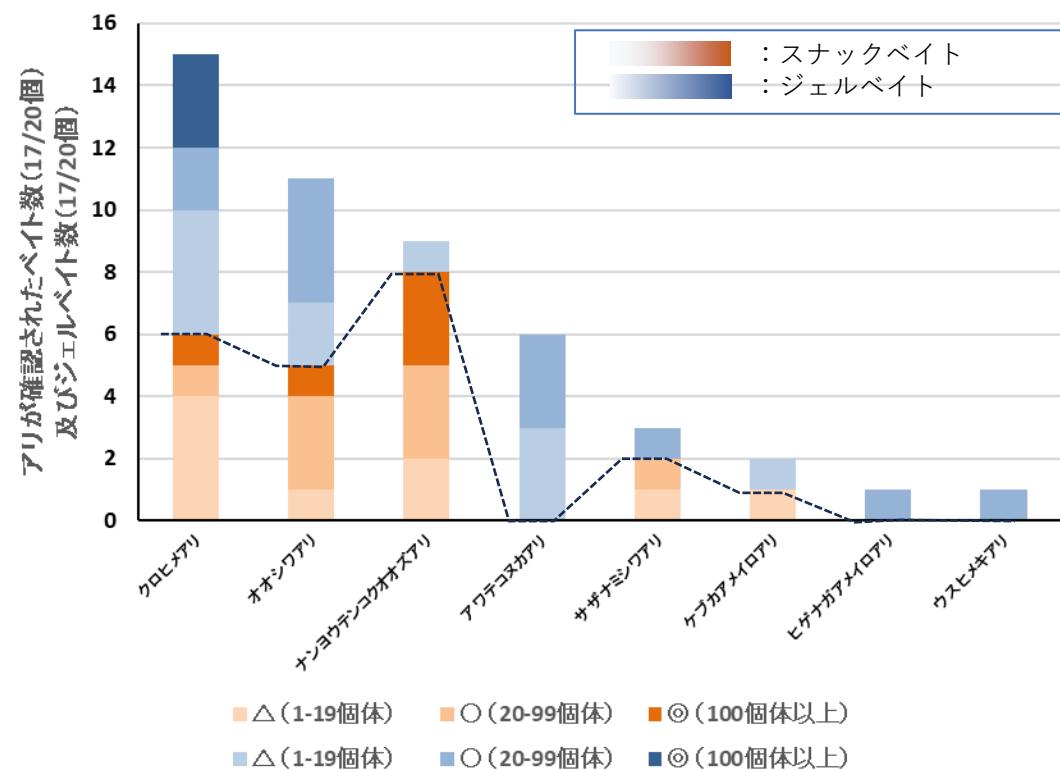
母島本島のプラントにてベイト+ジェルベイト誘引、および目視調査を実施した。

中ノ平：クロヒメアリ、オオシワアリ、ナンヨウテンコクオオズアリなどの外来既知種が確認された。アリ以外ではアジアベッコウマイマイが2個体確認された。



ツヤオオズアリ、ヒゲナガアメイロアリ、アシジロヒラフシアリなどの外来アリ類は検出されなかった。

母島中ノ平アリ類確認状況(ベイト+ジェルベイト)



オオシワアリ



アジアベッコウマイマイ